

一般社団法人コアプラス

2017年度事業報告書（案）



〒533-0031 大阪府大阪市東淀川区西淡路1-15-24

E-mail contact@coreplus.info URL <http://coreplus.info>

一般社団法人コアプラス

2017年度事業報告（案）

（2017年1月1日～2017年度12月31日）

● ビジョン（目指す社会）

多様な人々が、認め合い、関わり合いながら、誰もが自分を生きられる社会。

● ミッション（私たちの使命）

・教育事業：

「よい教育とは何か」を考え創造する〈教育者〉の主体的な学び育ちを支援・促進する。

（１）教育に関わる人たちが自らのアタリマエを問い直すために教育の多様性に触れる機会を提供する。

（２）教育に関わる人たちに向け、学び合い・つながり・支え合うために場づくりを行う。

（３）教育に当事者意識を持って関わる人を増やし、相互理解と立場を超えた共同を促進する。

・コミュニティ事業のミッション：

（１）地域コミュニティとテーマコミュニティをつなぐ多様な人たちが関わり合うコミュニティを創造する。

（２）多様な人々が生きたいように生きるための、学び・働き・暮らしを実現するサポートを行う。

教育事業

●Facilitative Educators Program

これまで多様な教育と出会い「学び」についての知見を蓄積してきたコアプラスが、「理想の教育を実現したい」と願う教育者のために、自団体のノウハウを活かして中・長期間のトレーニングプログラムを実施する事業。

日程：

<大阪>

①3/19（日）13:00～19:00 ②3/26（日）13:00～17:00
③4/29（土）13:00～19:00 ④4/30（日）13:00～19:00
⑤5/14（日）13:00～17:00 ⑥5/28（日）13:00～17:00
⑦6/4（日）13:00～17:00 ⑧6/18（日）13:00～19:00

<東京>

①6/25（日）10:00-17:00 ②7/2（日）10:00-19:00
③8/5（土）13:00-17:00 ④8/6（日）13:00-17:00
⑤10/1（日）14:00-17:00

<合宿ver>

①3/11（土）～12（日） ②5/20（土）～21（日）

参加者：大阪：4名 / 東京：3名 / 合宿：7名

成果と課題：

- ・誰の何に役立つプログラムなのかを明確に打ち出すことができなかったこともあり、集客に苦勞した。「教育者」では広すぎたと思われる。
- ・ダブルファシリテーターで実施したことで、関わり方にズレが生じるなど、噛み合わないことがあった。メインファシリテーター、コファシリテーターの役割を明確にするなどの工夫が必要であった。
- ・長期のプログラムとしては、提供できる知識と専門性が不足していた。また、コーチングとしても機能しきっていなかったように感じる。

●エデュコレ2018

さまざまな「教育のカタチ」を一望できる「教育の博覧会」を大阪と東京で実施。学校、塾、フリースクール、オルタナティブスクール、教育NPO、企業などなど、いろいろな立場から子ども・教育にかかわっている団体が、一堂に会し、ブース出展や企画を行った。前回＝2014年から4年ぶりの開催。今回は東京でも同時期に開催することに初めて挑戦した。さらに運営のためのインターン生を募集し、チームづくりをしながら準備にあたった。

◇in大阪

日程：2017年11月12日（日）

参加者：439名 出展団体数：38団体

成果と課題：

- ・立命館大学OICの会場が非常に開放的で、本イベントに適していた。当日は、出展団体の人と参加者が話し込む様子も各ブースで見られた。
- ・4年ぶりにも関わらず、多くの団体が参加してくれ、関西で積み上げてきた関係性や知名度が活かされたことがよかった。
- ・「多様な教育」が注目され始めている世の中の流れの中で、教育関係者を始め、保護者の方など多様な立場のニーズを受け止める場になった。
- ・公教育の中で働いている教職員が多く来てくれたことが、これまでの動きの結果として感じられた。

◇in東京

日程：2017年11月26日（日）

参加者：381名 出展団体数：38団体

成果と課題：

- ・初めての開催にも関わらず、多くの団体が出展してくれ、これを機に新しい団体や学校と関係を持つことができた。
- ・初めての開催にも関わらず、たくさんの方が参加してくれた。
また、大阪での実施と比べ、情報の広がりや早く波及効果があり、コアプラスの知名度が高まったように思う。
- ・会場のキャパシティに対して、参加者数が多く、熱気はあるが落ち着いて話がしにくかったり、人によってはしんどく感じる環境になってしまったことは、次回改善したい。大阪でも言えることだが、MAX人数を決め、入場制限をかける必要があるように感じた。

●海外フィールドスタディ

さまざまな形で教育に関わっている人、将来教育に携わっていこうとしている人を対象に、自分の“当たり前”や“常識”とは異なる教育観や実践に触れるために実際に様々な教育現場を訪れるという現場視察型研修。

◇韓国

日程：2017年9月11日（月）～14日（木）

参加者：5名（うち学生2名・社会人3名）

成果と課題：

- ・韓国の訪問は2回目になり、有力な現地コーディネーターのおかげで、現地プログラムの質は安定している。

・韓国の代案教育（オルタナティブ教育）は公教育にも影響を与え、連動する形で広がりを見せており、日本が学ぶことも多いが、日本において注目度が低いため参加者が集まりにくい。発進の仕方を工夫しながら、継続的に訪問できるようにしたい。

・今後現地の学校や団体と、より綿密な連携ができるよう、一過性でない交流の形を模索したい。特に平和教育を切り口に教師教育を行っているPEACE MOMOとは一歩進んだ連携ができればよい。

◇フィジー

日程：2017年8月17日（木）～8月23日（水）

参加者：8名（うち学生0名・社会人8名）

成果と課題：ツアーコーディネーター（永崎裕麻さん）にほぼ前日案内もしていただき、教育関係者向けの社会見学ツアーとして実施。

コアプラスとしては初めてとなる、「学び×リフレッシュ」をテーマとした『EDUTRIP』ツアー。観光や遊びの中で参加者同士のつながりを深めながら、様々な視察・ワークショップを通して「幸せとは何か」を一人ひとりが考えられるツアーとなった。

●地球大学 Global Teachers Course

国際NGOピースボートと協働し、地球一周の船上で教員志望者向けのトレーニングプログラムを実施する。以下の通り、説明会を毎月実施し、計29名が参加した。

2018.1.31時点で、申込数は17名。うち8名がコアプラスの発信から流入した層である。

<大阪>7月22日/8月20日/9月3日/10月14日/12月17日

<東京>7月2日/8月4日/9月30日/11月11日/12月20日/1月13日

2017年度にはGTCプログラムの実施自体はなく、宣伝活動と次回実施に向けたプログラムづくりのみを行なった。今回は、2018年5月出発の「第98回ピースボート地球一周の船旅」の洋上で実施予定している。

●Educators Community

学校の教員、教員志望の学生、民間の教育産業従事者、教育 NPO・フリースクール・オルタナティブスクールなどの関係者など、多様な教育関係者に向けて、多種多様な形式の、学び・つながり・エンパワメント の場づくりを行う事業。

実施日程：

1～6月 第3日曜日 Educators Cafe

1月21日 Educators School 「子どもの自信が育つ教室の作りかた」

1月22日 Education Road

2月11日 Educators School 「子どもの自信が育つ教室の作りかた」 vol.2

2月12日 立ち止まって考える

2月16日 Educators School／Talk Session
不登校とマイノリティ学校を切り口に、子ども・若者の生きづらさに迫る

3月5日 Educators Talk 3月

3月18日 Education Road

3月25日 ” 枠 ” を越える教師たち

4月9日 Educators Talk 4月

4月16日 世界で最も歴史のあるフリースクールサマーヒルスクールの 自由な学び・育ちを知る！

5月13日 著者の来る読書会～石川晋さんをゲストに『学校でしなやかに生きるということ』『私たちの「撮る教室」』を読む～

6月3日 Education Road

6月9日 リヒテルズ直子氏講演会 ＊ 『“主体的・対話的で深い学び”はいかに生まれるのか』 ～イエナプラン教育をヒントに～

7月1日 不登校とマイノリティ ー 学校を切り口に、子ども・若者の生きづらさに迫る

8月20日 Educators School ＊ Talk Session 「地域ベースで、生きる力をはぐくむ」

8月27日 【 in未来の先生展 】 多様性を受けとめる学校づくり
～マイノリティ当事者の声から、できることを考える～

参加人数のべ：390名

成果と課題：

- ・今年度はコアプラスの内部のメンバーの関心や問題意識からスタートした企画や、つながりのある団体や教育関係者のみなさんとのコラボレーションで実現した企画など、テーマも様々なものが実施できた。
- ・課題としては、エデュコレの準備期間にはやはり普段の小規模イベントが開催できなくなってしまう点や、アイデアや持ち込みなど、自然に生まれた企画をやっていて戦略性を持っていないことなどがあげられる。

●委託事業：東淀川区「地域に開かれた子どもの居場所支援事業」

大阪市東淀川区の、子どもの居場所（子ども食堂や学習支援）を増やし、持続可能な運営状況を構築するための事業を、NPO法人関西こども文化協会とともに受託し、運営した。

体制：NPO法人関西こども文化協会と共同事業体として東淀川区から受託。

コアプラスより2名、関文協雇用の3名の現場スタッフとともに現場支援にあたった。

成果と課題：

- ・今年度の評価指標であった、指定4中学校区での学習支援付きの新規の居場所の設置は、すでに2中学校区（中島・東淀）で実現し、年度内にもう1中学校区（大桐）で、また年度（3月末）をまたいでもう1中学校区（井高野）で、達成しそうな状況である。

- ・コングラント（月額サポーター制度）、eboard（WEB教材）、フードバンクの活用など、一定、現場支援のためのリソースが整ってきている。
- ・こどもの居場所の運営をする方や、立ち上げを希望する地域団体などへ、のべ123回・308人へのアドバイス業務を行った。
- ・毎月サポーター募集説明会を実施し、コンスタントに応募がある状況。これまで30名のサポーターが登録し、13名を居場所に紹介することができた。
- ・地域の利害調整に多くの時間とエネルギーがかかってしまい、コアプラスや関文協のネットワークや専門性を生かす動きが十分にできなかった側面があった。

コミュニティ事業

●コミュニティスペースco-arc

東淀川駅前のコミュニティスペース《co-arc》を、シェアハウス兼レンタルスペースとして運営する。また、co-arc を使って企画やイベントを実施し、スペースを活性化させると共に、地域の諸団体やキーパーソンとの関係性構築のための活動も行う。

レンタルスペース利用者：述べ 104回 990人

成果と課題：

- ・「地域に開かれた子どもの居場所支援事業」を受託したため、4月以降は事務所としての利用がメインになった。
- ・比較的安定的に、シェアハウスの利用者をみつけることができたこと、レンタルスペースを無人対応化によって、家賃や水光熱費を概ね賄うことができた。

●コミュニティハウスはらいふ

高槻市原にあるコミュニティハウスはらいふを、「人のつながりの中で、誰もが自分を生きられる場所」というコンセプトを具体化すべく場づくりを行う。地域の様々な資源を活かしながら、人のつながりを生み出していく。また、シェアハウス兼合宿ができるレンタルスペースとしても運営する。

レンタルスペース利用者：述べ 221人

成果と課題：

- ・シェアハウスの住民が、所属感をもち友人や知り合いを呼ぶことが多く、知り合い経由でたくさんの方とつながる機会ができた。
- ・高槻ジャズストリート等の広く一般に向けたイベント実施を多数行ったことで、従来のコアプラスの活動だけでは出会わなかった層とより多く関わりを持つようになった。

- ・特に夏休みの時期は、地域の保護者の方の利用や児童養護施設のこどもたちの合宿に使われるなど、たくさんの方の利用があった。
- ・コミュニティ農園計画は、継続的に作業することの難しさや獣害などもあり、思うように進まなかった。

●コミュニティ活性化事業

コミュニティスペース《co-arc》およびコミュニティハウス はらいふを活性化させるための、参加のハードルの低いさまざまなイベントを不定期に実施する。

実施したもの：

- 1月3日 最高に美味しいピザを食べるために、アースオープンから自分たちでつくるworkshop！（第1回）
- 1月7日 最高に美味しいピザを食べるために、アースオープンから自分たちでつくるworkshop！（第2回）
- 2月12日 最高に美味しいピザを食べるために、石窯から自分たちでつくるworkshop！（第3回）
- 4月1日・2日 DIY合宿 ウッドデッキをつくろう！
- 5月3日・4日 高槻ジャズストリート2017
- 6月25日 つながる・ガレージギャザリング
- 7月28日 帰国ほやほや！地球一周報告会
- 9月23日 はらいふは一ベすと-秋の夜長に、音楽と石釜ピザガーデン
- 10月20日 はらいふコミュニティ農園づくり -草刈り編
- 11月23日 ゆるゆるDIYディ and 鍋パーティ
- 12月18日 Xmasだよ！手づくりごはんと音楽の宴
- 4～12月 各月1回「はらはちぶんめ」計9回

のべ参加人数： 227名

成果と課題：

- ・石窯、ウッドデッキ、畑など、はらいふを魅力的にするハード面を、参加者とともに整備していくことができた。